

# 主要事業評価シート(第1次実施計画/H29・30・R1年度)

① 基本事項	計画コード	事業名		部名	健康福祉部	
	17044	三重大学亀山地域医療学講座支援事業		課名	長寿健康課 健康づくりG	
	施策の大綱	02:健康で生きがいを持てる暮らしの充実		財務科目	会計	01:一般会計
	基本施策	02:健康づくり・地域医療の充実			款	04:衛生費
	施策の方向	03:地域医療提供体制の整備			項	01:保健衛生費
戦略プロジェクト	01:「健都さぷり」プロジェクト		目		01:保健衛生総務費	
事業予定期間	H 23 ~ R - 年度	主な根拠法令要綱等		寄附講座の設置に関する協定書		

② 目的・概要	対象	三重大学
	目的	三重大学に対し寄附を行うことで、三重大学との連携を更に強化し、安定的に市立医療センターの医師を確保することで、地域の医療体制を強化する。
概要	三重大学が、市立医療センターにおいて総合診療・家庭医療・整形外科の診療体制を整えながら、実際の診療を通して地域医療を担う医師(総合医・家庭医)を養成するための教育や亀山市をフィールドとした地域医療に関する研究等を実施することに対し、寄附を行うものである。	

		平成29年度	平成30年度	令和元年度	
③ 事業の計画・実績	年度計画	○講座設置協定書に基づく三重大学への寄附 ○寄附講座設置の継続に向けた延長協定の再締結	○講座設置協定書に基づく三重大学への寄附	○講座設置協定書に基づく三重大学への寄附	
	年度実績	○講座設置協定書に基づく三重大学への寄附 講座設置協定書に基づき、寄附を行った。 ○寄附講座設置の継続に向けた延長協定の再締結 平成29年5月 寄附講座の設置に関する協定書の再締結。医療カフェ開催(講座の総合医、研修医、医学生)4回	○三重大学への寄附講座設置協定書に基づき、寄附を行った。 ○研修医受け入れ人数 4人 ○医学生受け入れ人数 13人 ○医療カフェ開催(講座の総合医、研修医、医学生)12回(延べ参加235人)		
事業の計画・実績	計画額	事業費	31,200千円	31,200千円	31,200千円
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他			
	予算額	事業費	31,200千円	31,200千円	31,200千円
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他			
	決算額	事業費 ①	31,200千円	31,200千円	0千円
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他			
人件費	総人件費 ②	2,611千円	2,646千円	0千円	
	一般職員	2,611千円	2,646千円		
	所要人員	0.34	0.34		
	臨時職員等	0千円	0千円		
	総コスト(①+②)	33,811千円	33,846千円		
受益者負担率	0.0%	0.0%			

				平成29年度	平成30年度	令和元年度
④ 指標	①	名称	三重大学への寄附	計画値	寄附実施	寄附実施
			亀山地域医療学講座の設置・運営経費として三重大学へ寄附	実績値	実施	実施
		活動		単位		
②	名称	講座での研究・教育活動の実施	計画値	活動実施	活動実施	活動実施
		市における包括的医療の実践による地域医療システム構築に向けた研究活動及び医師育成のための教育活動の実施	実績値	実施	実施	
	活動		単位			
③	名称		計画値			
			実績値			
			単位			

⑤ 事業の改善	前回評価	【前回評価の対応方針の概要を記入】 亀山地域医療学講座の現状や内容を伝え、医師確保を継続し、市民の健康を守り、健康寿命を延ばすことが必要であるため、医療カフェ終了後に、アンケートを実施し、今後聞きたい内容を把握する。
	改善行動	【前回評価の対応方針を踏まえ、どのような措置を講じたか】 アンケートの結果、高血圧やコレステロール値等の生活習慣病についての内容が上位を占めたため、その結果をもとに医療カフェを開催した。

		評価	(判定)
⑥ 事業の評価	活動	【計画どおりに実施できたか】 三重大学へ寄附を行うとともに、亀山地域医療学講座より派遣された医師が、医療センターをフィールドとして、実際の医療現場で、研修医や医学実習生を受け入れ、指導・教育活動を行った。 また、講座の医師や研修医などが地域に出向いて、講話と対話を行う、「医療カフェ」(延12回、延235人)を実施した。	A 計画どおり実施できた
	成果	【成果は順調に上がったか】 三重大学に対し寄附を行うことで、三重大学との連携を更に強化し、安定的に市立医療センターの医師を確保し、地域医療体制の強化が図られた。 診療体制の充実が図られたことにより、前年度と比較し、入院患者数(H29年度 23,586人、H30年度 23,635人)、病床利用率(H29年度 64.6%、H30年度 64.8%)ともに上昇した。	A 十分な成果を得た

⑦ 今後の対応方針	課題	【課題は何か】 亀山地域医療学講座の現状や活動状況を広く周知することで市民の健康を守り、健康増進につなげることが必要である。	今後の方向性 <input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> その他 【その他の場合、その内容を記載】
	対応	【課題に対し、どのように対応するか】 亀山地域医療学講座の活動の成果を市民にフィードバックするため、令和元年度末に成果発表会を開催する。	
	効果	【対応することで、どのような効果が期待できるか】 市民の健康が守られ、健康寿命を延ばすことが期待できる。	
対応時期		令和元年度	

【1次評価者】	健康福祉部 長寿健康課 健康づくりグループリーダー 駒谷 みどり
【最終評価者】	健康福祉部 長寿健康課長 高嶋 美季

(参考:前期基本計画期間(H29-R3)における評価履歴)

		H29	H30	R1	R2	R3
判定	活動	A	A			
	成果	A	A			